

|  |             |  |
|--|-------------|--|
|  <p>Member of<br/>United Nations<br/>Educational, Scientific and<br/>Cultural Organization</p>  <p>UNESCO<br/>Associated<br/>Schools</p>  <p>AKITA SDGs</p> | <h1>朝風</h1> | <p>令和3年度<br/>学校報No.34</p> <p>令和4年1月14日</p> <p>大仙市立<br/>大曲南中学校</p>  |
| <p>教育目標 自立 探究 貢献<br/>～ 志高く 自ら学び 未来を拓く ～</p>  |             |  <p>※HP随時<br/>更新しています</p> |

## ◇新年明けましておめでとうございます

2022年がスタートしました。年頭にあたり、「今年は〇〇にチャレンジしてみよう」とか「□□をがんばる」などの決意を新たにした生徒も多いと思います。具体的な目標をもつことはとても大切なことです。そして、目標を達成した自分の姿をイメージすることはもっと大切です。逆に言えば、目標を達成した姿をイメージできない目標は、目標として相応しくないということです。具体的な姿をイメージし、具体的な言葉で目標を立てましょう。

職員一同、皆さんの目標達成のために精一杯お手伝いします。今年もよろしく願います



## ◇本校出身のスーパースターは！



KEIRINグランプリ2021 ポスター



守澤太志先輩

皆さんは知っていますか？本校のOBで、競輪のスーパースターがいることを…。

その人の名前は、守澤太志さん（平成13年3月卒業）。昨年12月30日に行われた「KEIRINグランプリ2021」に、2年連続出場を果たしました。毎年12月30日に開催されるこの大会は、競輪界最高峰のレースと言われ、一定の条件により選ばれた9人のS級選手による1レースのみの一発勝負です。プロの競輪選手は、日本に約2,300人、この人数は日本のプロスポーツでも最大規模の人数となっています。その中のトップ9人に2年連続選ばれるているわけですから、まさに競輪界のスーパースターです。（詳しくは裏面をご覧ください。）

その守澤太志さんから、後輩である大曲南中学校の皆さんにメッセージが届いています。当時の担任（栗谷川学先生：現南教育事務所仙北出張所長）を通して、守澤さん本人からいただきました。

### 後輩へのアドバイス

何事も自分なりの課題をもって、一つ一つ考えて行動することで成長できると思うので、夢や目標に向かって諦めずに頑張ってください。

※今回は直前の怪我（鎖骨骨折）があり、気持ちだけで走りましたが不完全燃焼だったので、来年リベンジできるよう頑張ります（本人談）。とのことでした。

## ◇3年生頑張っています！

冬休み中、3年生は毎日のように登校し、「朝風志塾」を受講しました。もちろん受検に向けて自分の力を高めるためです。たくさんの問題に取り組み、分からないところは質問し、真剣に学習に向かいました。27日には公立高校の前期選抜が行われます。3年生の皆さん、体調管理をしっかり行い、ベストな状態で受検に臨めるよう頑張ってください。



## ◇小野崎晶さんから年賀状が届きました。

小野崎晶さんから、かわいい寅のイラストが描かれた年賀状をもらいました。ありがとうございました。



## ◇登下校時は気をつけて！

降雪により道幅が大分狭くなっています。道の両側の壁も高くなって見通しが悪くなっています。登下校時は十分注意してください。

# 守澤太志さん紹介

(KEIRINグランプリ2021のHP (<https://gp2021shizuoka.winticket.jp/>)「HEROストーリー」から

## —中長距離界のHERO、守澤

冬には雪が降り積もる秋田県大仙市で生まれ育った“ふとし”少年がスキー板を履くのは必然だった。小学4年生から始めたアルペンスキー。しかし、長く続けるにはお金もかかってしまう。将来のこと、そして親のことを考えて、中学のときに辞めた。家の近くにあった秋田県立大曲農業高等学校の自転車部が強豪だと知り、進学して入部した。2003年、高校3年生のときにインターハイのポイントレースで優勝する。当時、同じ大会の1kmタイムトライアルで優勝したのは同級生だった新田祐大である。高校卒業後は明治大学商学部へ進み、自転車部に所属した。2005年、大学2年生のときに国体のポイントレースで優勝。2007年、大学4年生のときには全日本大学対抗選手権（インカレ）の個人ロードレースで優勝している。ポイントレースやロードレースというのは自転車競技の中で「中長距離種目」にあたり、その世界で守澤はすでに「HERO」であった。

## —競輪界でトップを目指して

しかし守澤は大学を中退し、「短距離種目」である競輪の道を志すことにした。いわばマラソンのトップ選手が100m走で頂点を目指そうというものだとも言われ、傍から見れば無謀な挑戦とも思えた。2008年、日本競輪学校（現・日本競輪選手養成所）へ入校。同期には深谷知広がいた。2009年、在校成績10位で卒業。卒業記念レースは2位だった。同年7月に青森競輪場でデビューするが、結果は準優勝。初優勝は1カ月後の静岡競輪場である。それでも1年半で14回の優勝を重ねて、2010年のルーキーチャンピオンレースへ出場。結果は4着。1着は深谷知広だった。当時守澤はA級での出場だったが、深谷はすでにS級へ昇級していた。2011年1月にS級へ昇格。しかし力及ばず、翌年A級へ降格。2013年、再びS級へ復帰すると番手をまわるようになり、成績が安定し始めた。2014年、寛仁親王牌でG1初出場。2015年、富山競輪でS級初優勝を果たす。デビューから6年目のことだった。2016年からG1出場回数が増えていき、6月の久留米記念でG3初優勝。9月の共同通信社杯でビッグレース初優出を叶える。2017年、日本選手権でG1初の決勝進出を果たした。その後落車や失格が相次ぎ、2018年には一時S級2班へ降班してしまうが、2019年にS級1班へ復帰すると、その年は事故なく級班を守り切る。そして2020年、F1で優勝を重ね、ウィナーズカップで準優勝。G1で着をまとめ、気付けば賞金ランキング9位。10位の山田英明とわずか180万円の差で、初のグランプリ出場を成し遂げたのである。

## —競輪界No.1の差し脚武器に

経歴の示す通り、強い選手ではあるけれど、競輪界のスターというほどの派手さはない。今年も6月の別府記念では優勝しているが、これまで12年の競輪人生でグレードレース優勝はG3の2回だけ。ビッグレース優勝歴はなし。それでも今年も獲得賞金ランキング8位で2年連続グランプリ出場を決めた。なぜなのか。それは間違いなく、学生時代に中長距離で鍛えたスタミナだ。直線での追込み、差し脚は競輪界ナンバーワンと言っても過言ではないだろう。だからこそ、ビッグレースの決勝常連であり、優勝には届かないものの、確定板には乗ってきている。その積み重ねのグランプリ出場だ。同級生の新田祐大や同期の深谷知広は出場が叶わなかった。競輪。それは単に短距離の自転車競技ではなく、総合力の戦い。守澤のような選手がグランプリで勝って「HERO」になることを、“競輪”ファンは望んで止まない。